

(様式4)

令和7年11月18日

## 令和7年度 第2回 大阪市立今川小学校園 学校協議会 実施報告書

校 園 名 大阪市立今川小学校

校 園 長 名 吉川 秀樹

日 時		令和7年11月14日（金） 午前10時00分～11時00分（60分）	
場 所		大阪市立今川小学校 校長室	
出席者	委員 など	会長・副会長・（委員） 5名 計7名	
	校 園	（校長）吉川 秀樹 （教頭）宮本 聖司 （教務主任）	
	区役所	保健福祉課長代理 1名	
議 題		① 「運営に関する計画・自己評価」中間評価について ② 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について ③ 学校安心ルール・今川小タブレットルールについて	
協議要旨	協議の結果		意見の概要
	①	「運営に関する計画・自己評価」中間評価について説明をし、理解を得た。	○会長や副会長・委員より、学習者端末の利用状況についての質問が出た。子どもたちが学校生活の中で、「こころの天気」を入力が定着していることで、子ども一人一人の心の変化が可視化され、自分から話をしづらい児童に話を聞くというサポートに一役買っていることを確認した。また、未入力を防ぐ方法として、担任の声掛けだけではなく、音楽を流すなどの工夫があってもよいなどの意見を頂いた。さらに、保護者にも同じようなツールがあれば、子どもの心の変化に保護者の気持ちがリンクするのかなど、さらに発展させることができるのではないかという意見が出た。 ○委員より、学習者端末の持ち帰りについての意見が出た。毎日の持ち帰りが定着してきたが、家庭での使用方法が保護者にわからず、学校からの借りものであることから壊してはいけないリスクばかりが気になり、家庭での利用につながらないという意見を頂いた。学校が「家で何ができるようになってほしいか」という持ち帰りの目的を保護者に伝え、「こんなことをしてほしい」という具体的な内容を伝えてもらえば、家での活用が増えるという意見を頂いた。家庭での使用方法の問題は、学校だけではなく大阪市全体に広めていく必要があるという意見を頂いた。
	②	令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について説明をし、理解を得た。	○学識者より、学校の授業が知識・技能の獲得に重きを置いてしまっていることから、大阪市平均より少し低い結果につながっているのではないかという意見を頂いた。知識・技能につながる定着は、デジタルドリルを使い家庭で定着できるようにし、思考・判断を伸ばす授業に重点を置く授業を学校では

			<p>行うような仕組みを作っていけばいいという意見を頂いた。教員はそういう授業を組み立てていくことで、子どもたちの深い学びを得ることをできるようになり、考える力の育成につながるという意見を頂いた。</p> <p>○委員より、子どもたちが文章を読む力の育成が必要であるのではないかという意見を頂いた。正しい日本語を読めるということで、進学中学校では試写の時間を取ることで、問題を正しく読む力が身につく、考える力がつくように取り組んでいるという意見を頂いた。小中連携をさらに深め、子どもたちの学力をつけていくことを確認した。</p>
	③	学校安心ルール・今川小タブレットルールについて説明をし、理解を得た。	<p>○委員より、学習者端末の活用方法について、学校で議論したことを保護者へのタブレットルールとして手紙やデータを共有する必要があるという意見を頂いた。ミマモルメなどに送信することで、いつでもどこでもすぐに確認できるようにすればいいと意見を頂いた。</p> <p>○学識者より、毎日学習者端末を持ち帰ることになった経緯について、質問があった。いつでも家庭でのオンライン授業を行うことができるよう、持ち帰っていることを説明し、ご理解いただいた。持ち帰ったあとの使用方法について、早急に考えていく必要があるという意見を頂いた。</p>
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度「運営に関する計画・自己評価」中間評価</li> <li>・令和7年度「全国学力・自己評価」の結果</li> <li>・学校安心ルール</li> <li>・今川小タブレットルール</li> </ul>		
備考	傍聴者[ 0 ]名 <hr/>		